

平成十二年三月

蟹江町歴史民俗資料館

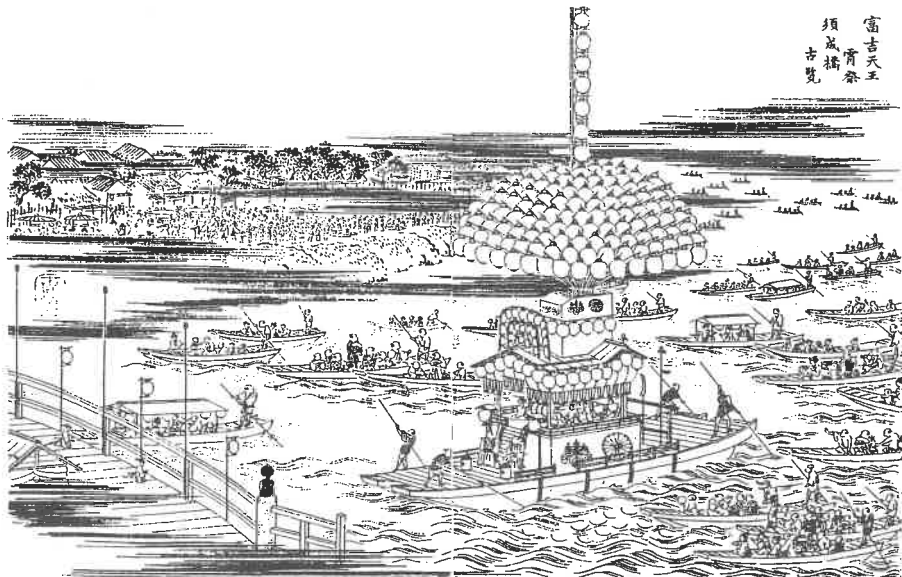
# 年報

第二十冊

# 目次

一、「沿革誌」より	1
二、施設概要	6
三、事業概要	8
四、資料の収集・保管	10
五、展示	30
六、調査・研究	41
七、情報提供	42
八、教育普及	44
九、庶務報告	93
十、文化財保護	103

富吉天王  
須成祭  
古覽



## 地名のいわれ（須成）

現地名：愛知県海部郡蟹江町大字須成  
旧地名：尾張国海東郡須成村（江戸時代）

須成の地名のおこりについて定かではないが、河川が運んだ砂が積もり、できあがった洲（沙）から、洲成・沙成・砂成となり、現在の「須成」となったといわれている。

鎌倉時代から富吉荘に編入されていたようである。

村内の富吉速神社・八剣社及び龍照院は、奈良時代に行基菩薩により建立されたと伝承され、平安時代末期には、木曾義仲に縁のあった社寺として有名で、天正十二年（一五八四）の蟹江合戦の兵火により、大半を焼失したが、江戸時代後期（一八〇〇年代）には、定期市である六斎市も開かれ、門前町として繁栄した村であった。

例年八月（旧六月）に行われる須成祭は、織田信長、豊臣秀吉から約四百年の長い伝統と由緒をもった祭で、その様子は、「尾張名所図会・須成橋古覽」の項にて、理解することができる。

江戸時代の須成村戸数及び人口（蟹江町史参照）

寛文十一年（一六七二）	戸数 百五十八戸	人口 七百七十六人
寛政四年（一七九二）	戸数 二百四十戸	人口 千四十四人